

---

# 縁側の野良猫

青茶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

縁側の野良猫

### 【Nコード】

N9429J

### 【作者名】

青茶

### 【あらすじ】

普通の人生を送った爺さんの話

たった一人、この広い家に取り残されて何年になるだろう。

妻に先立たれてからは、住み慣れた家がやたらと広く感じる。

だが、少しも寂しくはない。自慢の息子達が、頻繁に孫を連れては訪ねてきてくれるからだ。

ふと、庭の景色がいつもと違うことに気づく。

縁側近くに植えられた桜の木の下、そこに灰色の野良猫が座り込んでいた。

「もういいかい？」

そいつは、縁側で御茶を啜っていた私に問い掛けてきた。

空耳だと思い、しばらく何も答えないでいると、そいつはゆったりと私に近づいてきて、隣りにちょこんと座り込んだ。

「爺さん、返事ぐらいしておくれよ。わざわざこつこつして出向いてやっただ」

私は髪の毛の薄い白髪頭をポリポリと掻く。

別に怖くはない。

この歳にもなると、怖いことなど限られてくる。

ただ、不思議なこともあるものだなと思うだけだった。

そいつは大きく欠伸をすると、私に構わず勝手に喋りはじめた。

「え〜と、奥さんは三年前に他界していて、息子が三人。そいつらもそれぞれ嫁さんをお願い、孫が九人か……爺さんもいれると十六人家族だな」

そうか、私にはそんなにたくさん家族がいたのか。

そいつは私を横目で見ると、優しく微笑んだ。

「爺さんは普通の両親の間に生まれ、普通に日々を過ごし、普通に恋をして、普通に自分の家庭を築いた。俺はなかなか上出来の人生だと思うね」

いきなり、この猫は何を言い出すのか……

でもまあ、確かに上出来な人生だとは思う。

しかし、どれだけ上出来な人生だとしても、死ねばそれで終わりだとも思えた。

万人の最後に待つモノが“死”である以上、私の平凡な人生に、意義はあったのだろうか。

そいつは悲しそうに首を傾けた。

「爺さん、そんな風に考えては駄目だ」

そいつには、私の考えていることがわかるらしかった。

「爺さん、俺は人生に意義があるなんて言わないよ。子孫や財産、もしくは、他人に幸せを残したからといって意味があるとは思わない」

そいつは少し、表情を和らげる。

「爺さん、爺さんは自分の人生が楽しかったかい？」

私は無言のままうつむいた。けれども、確かに楽しかったと思える人生だ。

相変わらず、そいつは勝手に話し続ける。

「爺さん、爺さんが自分の人生を幸せだと思えたなら、それだけで爺さんの人生は充分のはずだろうか？」

そんなものなのだろうか

しばらく、私とそいつは、庭をどこともなく眺めていた。

次第に日が暮れはじめ、夕焼けが優しく私を照らす。

「爺さん、そろそろ行くのか。もう休んでもいい頃だ。爺さんはよく頑張ったよ」

そいつのその言葉で、私は自らの死期を悟った。

そして私は今日始めて、声に出してそいつへ返事をした。

「野良猫さん、ほんの少し待ってはくれんかな。普通の最後にしては、とても綺麗な景色なんじゃ」そいつは、また少しだけ表情を曇らせた。

「爺さん、向こうで奥さんが待ってるよ。日が沈んだら行こう」

私は頷き、しばらく夕日を眺める。

「爺さんは立派だ。普通の幸せを手に入れるなんてこと、普通の人間にはできない」

あの夕日が沈めば、私の命も尽きる。

そうだとしても、今が人生でいちばん幸せな時間に思えた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9429j/>

---

縁側の野良猫

2010年12月10日22時46分発行